

高志の国
文学館

KOSHINOKUNI
Museum of Literature

高志の国文学館 年報

平成24年度

高志の国文学館 年報

平成24年度

目 次

I 平成24年度のあゆみ

- 1 平成24年度のあゆみ…………… 4

II 事業内容

- 1 展示活動…………… 8
- 2 資料概況…………… 17
- 3 教育・普及事業…………… 18
- 4 高志の国文学館友の会…………… 22

III 管理・運営

- 1 利用状況…………… 24
- 2 施設の概要…………… 26
- 3 機構…………… 27
- 4 組織…………… 28

IV 資料

- 1 沿革…………… 30

V 法令

- 1 関係法令…………… 32

I 平成24年度のあゆみ

平成24年7月6日 高志の国文学館 開館

平成24年7月6日(金)、高志の国文学館の開館記念式典が、サンシップとやまで行われた。

式典では、石井隆一知事が「県民が楽しく学び、新たな創作の場となる文学館にしたい」と式辞を述べ、中西進館長が「富山が培った歴史や風土を世界に発信する」と挨拶。式典終了後、一同は松川べり遊歩道に設置された越中万葉歌碑や歌石板を鑑賞しながら文学館まで移動した。

文学館に到着後、石井知事、中西館長が、文学館の初代館長に就く予定だった歌人・作家の辺見じゅん氏のご遺族であるスキャンロン香子氏、坂本彩子氏とともに記念植樹を行った。

その後、当館のアドバイザーである映画監督の篠田正浩氏や漫画家の藤子不二雄[Ⓐ]氏らによるテープカットが行われた。

あいにくの雨模様であったが、多くの皆様のご参加のもと、富山県のふるさと文学の魅力を発信する新たな施設の門出を祝った。



開館記念式典（会場：サンシップとやま）



テープカット



開館記念展

「大伴家持と越中万葉一風土とこだまする家持の心」観覧



文学館内
「ラ・ベツトラ・ダ・オチアイ・トヤマ」での記念パーティー

開館記念講演会

開催日／平成24年7月8日(日)

会場／富山県教育文化会館

講師／五木寛之氏(作家)

演題／日本文化の底流

参加者／650名

高志の国文学館の開館を記念して、作家の五木寛之氏による講演会を開催した。五木氏は、親鸞の詩歌「和讃」や平安時代の流行歌謡「今様」を引き合いに、「年表ではうかがい知れない、当時の人々の感情を伝えるのが文芸。活字を読む際には、その言葉が発せられた当時の情景を想像しながら読むことが大切」と語った。

また、当館に対しても、「人が絶えず訪れる場所として永続してほしい」とエールをいただいた。

高志の国文学館 開館記念講演会

講師 **五木寛之氏**

講師 **「日本文化の底流」**





五木寛之 いつきひろゆき

1932年、福岡県に生まれる。戦後、北朝鮮より引揚げ。早稲田大学文学部ロシア文学科中退。1966年「さらばモスクワ愚連隊」で小説現代新人賞、「轟ざめた馬を見よ」で第56回読者賞受賞。「青春の門」で吉川英治文学賞をうける。代表作は「朱雀の墓」「戒厳令の夜」「嵐の王国」「通知」「大河の一滴」。

翻訳にチューホフ「天を離れた貴婦人」、リチャードバック「かものジュナサン」、ブルック・ニューマン「リトルターン」等がある。

第一エッセイ集「風に吹かれて」は刊行45年をへて、現在総部数約460万部に達するロングセラーとなっている。

ニューヨークで発売された英訳版「TARIKI」は、2001年度「BOOK OF THE YEAR」(スピリチュアル部門)に選ばれた。また2002年度第50回菊池寛賞。2010年、NHK放送文化賞、長篇小説「観葉」で第04回毎日出版文化賞特別賞。

1981年より休筆。京都の龍谷大学において仏教史を学ぶが、1985年より執筆を再開し、泉鏡花文学賞、吉川英治文学賞、その他の選考委員をつとめる。

最近作に「観葉 激動篇」がある。

平成24年7月8日(日) 13:30～15:40(開場13:00)

会場 富山県教育文化会館ホール
(高志の国文学館 北向い)



プログラム

- 1 主催者挨拶 富山県知事 石井隆一
高志の国文学館長 中西 謙
- 2 記念講演 講師 五木寛之氏
演題 「日本文化の底流」
- 3 「ふるさとの歌」紹介

定員550名
聴講無料
事前申込必要
(要血圧計)

平成24年度のあゆみ | 05

平成24年度 高志の国文学館のあゆみ

年 月 日	事 項
平成24年 7月 6日	高志の国文学館 開館 開館記念展「大伴家持と越中万葉－風土とこだまする家持の心－」 (10月14日まで)
7月 8日	開館記念講演会 五木寛之氏（作家）「日本文化の底流」
7月28日	開館記念展講演会 里中満智子氏（漫画家）「万葉集に思いを馳せて」
7月15日	入館者数1万人突破
8月 8日	秋篠宮同妃両殿下並びに佳子内親王殿下ご来館
9月 7日	朗読と弦楽の夕べ（～10月12日 全5回）
9月15日	越中万葉朗唱の夕べ
9月23日	辺見じゅん先生の思い出を語る会
10月21日	平成24年度高志の国文学館文学講座（～11月25日 全5回）
12月 7日	映画『少年時代』上映会 & 公開座談会 (篠田正浩氏×山田太一氏×中西進 (藤子不二雄 [Ⓐ] 氏ビデオレター出演)
12月 8日	開館記念展Ⅱ 「富山が育んだ少年時代－小説・漫画・映画が描く疎開少年の長い道－」 (2月25日まで)
平成25年 1月12日	映画『劔岳 点の記』木村大作監督トーク & 上映会
2月 3日	入館者数10万人突破
2月11日	映画『少年時代』上映会 & 特別企画「篠田監督と主演少年たちとの再会」
3月20日	特別展「おおかみこどもの雨と雪－大自然に生きる母と子の物語－」 (6月3日まで) 映画『おおかみこどもの雨と雪』上映会

II 事業内容

1. 展示活動

□常設展示

概要

常設展示では、当館の収蔵資料を中心に、万葉歌人・大伴家持の越中万葉から現代文学に至るまで、富山県にゆかりのある作家や作品の魅力を紹介している。また、文学だけでなく、漫画や本県ゆかりの先人についても紹介している。

<ふるさと文学の回廊>

富山県ゆかりの代表的な文学者10人を、パネルや直筆原稿などの資料で紹介。この10人については、順次展示替えを行うこととしている。また、回廊内に設置した4つのデジタル万華鏡では、大伴家持の生涯や山岳文学、富山県ゆかりの漫画家や先人について紹介。



「ゆかりの文学者たち」コーナー

<ふるさと文学の蔵①>

古代・中世の富山県ゆかりの文学作品を紹介するとともに、大書架「知の蓄積」では、富山県ゆかりの書籍や寄贈された資料を展示。

体験型装置「万葉とばし」では、大伴家持が詠んだ歌を音と映像で紹介。



体験型装置「万葉とばし」(左)と大書架「知の蓄積」(右)

<ふるさと文学の蔵②>

「ふるさと文学年表」により、万葉の時代から続く富山の文学について、その変容と発展を時代背景とともに紹介。

<ふるさと文学の蔵③>

富山県ゆかりの漫画家をパネルや愛用品とともに紹介。デジタル装置「不思議な本」では、漫画・アニメーションの制作工程を学ぶことができる。

このほか、富山大学附属図書館に所蔵されているヘルン文庫(小泉八雲の旧蔵書)や、富山が輩出した偉大な先人について紹介。



「ゆかりの漫画家たち」コーナー



「越中の先人」コーナー

□ 展示構成

平成25年3月31日現在

導入展示	文学鳥瞰地図	富山県内に点在する文学ゆかりの地等を検索
	ふるさと文学万華鏡	大伴家持の生涯や山岳文学の歴史をデジタル絵巻で紹介
ふるさと文学の回廊	ゆかりの文学者たち	三島霜川 小寺菊子 田部重治 田中冬二 岩倉政治 源氏鶏太 堀田善衛 柏原兵三 木崎さと子 宮本 輝
	ふるさと文学万華鏡	富山県ゆかりの漫画家や先人を映し出すデジタル万華鏡
ふるさと文学の蔵①	大書架「知の蓄積」	富山県ゆかりの書籍や寄贈資料を展示
	万葉とばし	大伴家持が越中で詠んだ歌を音と映像で紹介する体験型装置
	古代の文学／中世・近世の文学	万葉集、立山曼荼羅を紹介
ふるさと文学の蔵②	ふるさと文学年表	万葉の時代から続く富山県ゆかりの文学を紹介
ふるさと文学の蔵③	ゆかりの漫画家	藤子不二雄 ^㉔ 藤子・F・不二雄 山根青鬼 山根赤鬼 まつもと泉 原 秀則
	ヘルン文庫	ラフカディオ・ハーン（小泉八雲） 南日恒太郎
	越中の先人	前田正甫 安田善次郎 浅野総一郎 高峰讓吉 米澤紋三郎 金岡又左衛門

(注1) 開館を記念して、ゆかりの文学者・漫画家および先人の一部について、関係の機関や個人より実物資料を借用のうえ展示した。

(注2) ヘルン文庫の展示については、富山大学附属図書館のご協力を得て、所蔵資料の借用・展示を行った。24年度は3回の展示替えを行った。

□企画展示

(1)開館記念展「大伴家持と越中万葉 —風土とこだまする家持の心—」

会 期／平成24年7月6日(土)～10月14日(日)

主 催／高志の国文学館

特別協力／高岡市万葉歴史館

担当学芸員／中川美彩緒・綿引香織

観覧者数／15,527人

出品点数／約70点

印刷物／ポスター A1判 チラシ A4判



チラシ 表



図録

趣旨・総括

天平18年(746)に越中国守として赴任した万葉歌人大伴家持は、5年間の在任期間中に223首もの歌を残した。これに周辺の人々によって詠まれた歌などを加えた337首が「越中万葉」と呼ばれている。開館記念展にあたり、当館では「富山県のふるさと文学の原点」として越中万葉をとりあげ、大伴家持と越中の風土との関わりや、家持の歌の獨創性について、様々な角度から読み解こうと試みた。

展示は全体を2部構成とし、第1部では、家持が越中国で詠んだ歌を14首とりあげ、「飛翔する詩心」「雪の光景」「民への親しみ」「死を超えるいのち」「祈りの風土」という5つのテーマに則して、絵画や写真などとともで紹介した。開館にあわせて制作された万葉絵画—郷倉和子「ふるさとの万葉」、大島秀信「早月川より劔立山を望む」、藤森兼明「紅にほふ少女らし」—は、本展が初公開となった。

第2部では、家持の人物像について、家持が生きた時代の資料や、後世の人々によりイメージ化された家持像、『万葉集』の関連資料、研究者が語る家持像などを通じてアプローチした。

最後の「イメージ化された家持」コーナーでは、現代の子どもたちに向けたメッセージとして、今回の企画展に合わせて制作したオリジナルアニメ『マイの越中万葉体験記』(P.A.WORKS)と、佐竹美保の絵本『春の苑 紅にほふ—はじめての越中万葉』の原画を展示した。越中万葉の世界を分かりやすく紹介したこれらの展示は、子どもだけでなく大人にも好評であった。

大伴家持と越中万葉について、古代から現代に至るバラエティに富んだ資料や作品、映像によって紹介した今回の企画展は、万葉の世界の魅力をより身近に感じていただける機会となったのではないかと思う。



展示風景



『春の花 紅にほふ—はじめての越中万葉』



『マイの越中万葉体験記』

□関連行事

①記念講演

里中満智子氏(漫画家)「万葉集に思いを馳せて」

【開催日】7月28日(土)13:30～15:30

【会場】富山国際会議場

【聴講者数】600名

②関連講座 *各回 14:00~15:30 当館研修室101にて実施

開催日	講師	演題	受講者数
7月21日(土)	米田憲三氏(歌人)	讃歌でたどる神の山、立山	38
8月26日(日)	日影康子氏(歌人)	越中万葉と現代短歌	58
9月9日(日)	新谷秀夫氏 (高岡市万葉歴史館 総括研究員)	松尾芭蕉が見た歌枕、近現代歌人が詠む越中 - 越中万葉と関わらせながら -	41
10月14日(日)	久泉迪雄氏(歌人)	万葉考現学	63

③関連イベント

「万葉恋活♡講座 ～万葉集に学ぶ恋の技～」

【開催日】 8月20日(月)18:30~19:45

【会場】 富山県教育文化会館

【主催】 NHK 富山放送局、富山県

【出演者】 織作峰子(写真家)×篠原ともえ(タレント)×スピードワゴン(お笑い芸人)×中西進(当館館長)

【司会】 中條誠子(NHK 富山放送局アナウンサー) 【聴講者数】 約400名

□図録

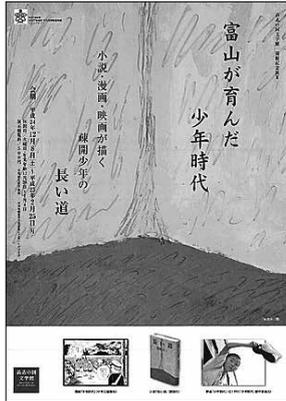
『大伴家持と越中万葉 - 風土とこだまする家持の心 - 』(A4版カラー39頁)

□主な展示物

	資料(作品)名	作者	年代	所蔵
I 家持の歌の世界				
絵画	布勢の水海	守屋多々志	昭和57年(1982)	富山県立近代美術館
絵画	ふるさとの万葉	郷倉和子	平成24年(2012)	当館
写真	《桃》《梅の花》ほか(全6点)	幡谷廣司	平成3年~5年(1991~1993)	幡谷廣司氏
絵画	早月川より剣立山を望む	大島秀信	平成24年(2012)	当館
絵画	紅にほふ少女らし	藤森兼明	平成24年(2012)	当館
絵画	潮	平山郁夫	昭和58年(1983)	富山県立近代美術館
絵画	老宴(月光)	斎藤 宗	平成16年(2004)	富山県水墨美術館
絵画	遠響	下田義寛	平成13年(2001)	富山県水墨美術館
II 家持の人物像				
書跡	太政官符(家持自署)複製		原本:宝亀3年(772)	石川県立歴史博物館
書跡	金沢文庫本万葉集 断簡		室町時代初期	高岡市万葉歴史館
書籍	家持集		江戸時代初期	高岡市万葉歴史館
絵画	三十六歌仙図のうち7図 (中納言家持、山辺赤人ほか)	岩佐又兵衛	江戸時代	福井県立美術館
絵画	大伴家持	安田鞞彦	昭和22年(1947)	個人
書跡	尼崎本万葉集 断簡		平安時代末期頃	富山県 [立山博物館]
書籍	寛永版本万葉集		寛永20年(1643)刊	当館
書籍	萬葉代匠記	契沖(著)	江戸時代刊	高岡市万葉歴史館
パネル	越中国府跡の遺跡写真			写真提供:高岡市教育委員会
考古資料	「宅持」墨書土器(総曲輪遺跡)		奈良時代後期	富山市埋蔵文化財センター
考古資料	円面硯(流団No.16遺跡)		8世紀	富山県埋蔵文化財センター
考古資料	越中国羽咋郡木簡(平城宮跡)複製		原本:天平18年(746)	高岡市万葉歴史館
考古資料	出挙木簡(北高木遺跡)		8世紀後半	富山県埋蔵文化財センター
考古資料	瑪瑙製石帯(任海宮田遺跡)		9世紀後半	富山県埋蔵文化財センター
絵画	正倉院宝物 鳥毛立女屏風(第1扇)複製		原本:奈良時代 正倉院宝物	高岡市万葉歴史館
絵画	絵本『春の苑 紅にほふーはじめて の越中万葉』原画(全18点)	佐竹美保	平成23年(2011)	個人
映像	マイの越中万葉体験記 (アニメーション)	P.A.WORKS	平成24年(2012)	当館
立体物	大伴家持銅像複製		平成24年(2012)	当館

(2)開館記念展Ⅱ「富山が育んだ少年時代—小説・漫画・映画が描く疎開少年の長い道—」

会 期／平成24年12月8日 日～
平成25年2月25日 日
主 催／高志の国文学館
特別協力／柏原光太郎、篠田正浩、藤子不二雄[Ⓐ]
(50音順) 山田太一、表現社、藤子スタジオ
担当学芸員／綿引香織
観覧者数／4,064人
出品点数／約180点
印刷物／ポスター A1判 チラシ A4判



チラシ 表



ガイドブック

趣旨・総括

太平洋戦争の末期、東京から富山県入善町に縁故疎開してきた少年の疎開生活を描いた、柏原兵三の自伝的小説『長い道』。同様の疎開体験を持つ藤子不二雄[Ⓐ]は、この物語から受けた感動を漫画『少年時代』に描き、さらに篠田正浩監督・山田太一脚本による映画『少年時代』として結晶させた。

本展では、小説、漫画、映画という3つの手法により描かれたこれらの作品が誕生するまでの過程をたどり、作品世界の魅力と作り手たちの思いを読み解こうと試みた。

展示は3部構成とし、第1部では、早世した芥川賞作家・柏原兵三の横顔と小説『長い道』の世界を、柏原が疎開当時につけていたノートや、作品にも引用されている手紙、『長い道』の創作過程をうかがわせる数種類の草稿など、初公開の貴重な直筆資料などを通して紹介した。また、当時の写真館で実際に使われ

ていたカメラや学校の机、戦時中の生活用品などの実物資料も展示し、作品の時代背景についての理解を図った。

第2部では、漫画『少年時代』にこめた藤子不二雄[Ⓐ]の思いと作品世界について、作品の印象的なシーンを厳選した複製原画や原画の拡大パネルなどにより紹介した。

第3部では、映画『少年時代』にこめられた製作者たちの思いを紹介するとともに、篠田監督が実際に使った映画台本や映画の小道具、撮影風景や映画の一場面をとらえたスチール写真、県内のロケ地マップなどを展示した。

会場の最初には、小説・漫画・映画の内容と関係性を簡略に説明するフラッシュ映像を投影し、最後には、今回の企画展のために収録された、「『長い道』から『少年時代』へ」を語る藤子不二雄[Ⓐ]のコメント映像を上映した。一つの物語を、小説・漫画・映画という異なる手法で描きつた本作は、様々なジャンルを扱う当館の性格にふさわしい展示となった。

また、参加型の企画として、「私の少年時代」をテーマにした葉書の募集、県内の映画ロケ情報の募集などを行った。

この企画展にあわせて、長らく絶版となっていた柏原兵三『長い道』が桂書房より再版され、手軽に作品にふれられるようになった。



復刊された『長い道』



展示風景

□関連行事

①映画上映会&トークショー

開催日	内容・出演者	会場	観覧者数
12月7日(金)	・映画『少年時代』の上映会 ・公開座談会 【出演者】篠田正浩氏(映画監督)×山田太一氏(脚本家) ×中西進(当館館長) 藤子不二雄 [Ⓐ] 氏(※ビデオレターでの出演)	富山県教育文化会館	400
2月11日(祝・月)	・映画『少年時代』の上映会 ・特別企画「篠田監督と主役少年たちとの再会」 【出演者】篠田正浩氏(映画監督)×藤田哲也氏(「進二」役) ×堀岡裕二氏(「武」役)×中西進(当館館長)	富山県教育文化会館	519

②関連講座

開催日	講師	演題	受講者数
12月23日(日)	須山盛彰氏(富山県郷土史会副会長)	昔、学童疎開があった頃 - 柏原兵三と藤子不二雄 [Ⓐ] の少年時代 -	45
1月13日(日)	八木光昭氏(聖徳大学教授)	柏原兵三『長い道』、藤子不二雄 [Ⓐ] 『少年時代』、 篠田正浩監督『少年時代』	40
2月3日(日)	久保 勲氏 (富山映画サークル協議会事務局長)	映画『少年時代』の少年捜し	35
2月3日(日)	柏原光太郎氏(柏原兵三氏ご令息)	父 柏原兵三のこと	39

□ガイドブック

『富山が育んだ少年時代 - 小説・漫画・映画が描く疎開少年の長い道 -』(A4版1色刷8頁)

□主な展示物

	資料(作品)名	作者	年代	所蔵
プロローグ 『少年時代』の世界へ				
写真	映画「少年時代」スチール	©1990「少年時代」製作委員会		写真提供：表現社、藤子スタジオ
映像	フラッシュ映像 「『長い道』『少年時代』の世界へ」	制作：宝来社	平成24年(2012)	写真提供：表現社、藤子スタジオ、桂書房ほか
音楽	「少年時代」	井上陽水	平成2年(1990)	
1 小説『長い道』 - 理想と現実				
ノート	大東亜戦争日記	柏原兵三	昭和17~19年	個人
愛用品	愛用の画材道具	柏原兵三		個人
絵画	直筆絵画(講談社版単行本の表紙絵)	柏原兵三		個人
書簡	柏原兵三・兵四郎宛封書	柏原兵太郎	昭和19年(1944)	個人
カメラ	木製スタンドカメラ			シマセ写真館
原稿	『疎開の頃』	柏原兵三	昭和23年(1948)	個人
原稿	『長い道』	柏原兵三		個人
書籍	小学国語読本			富山県戦後50周年記念事業委員会
看板	「空襲警報発令中」看板			富山市郷土博物館
パネル	写真 上原小学校・山崎小学校・大 家庄小学校の校舎			写真提供：入善町立上青小学校、朝日町立あさひ野小学校
家具	学校机(二人掛け用)			富山県教育記念館
2 漫画『少年時代』 - いじめ				
写真	山崎小学校アルバム		平成11年(1999)	朝日町立あさひ野小学校
書籍	『豹の眼』(復刻)	高垣 眸	原本：昭和3年	当館
パネル	漫画『少年時代』のワンシーン	藤子不二雄 [Ⓐ]		藤子スタジオ
原画	『少年時代』複製原画(全10点)	藤子不二雄 [Ⓐ]		藤子スタジオ
書籍	『週刊少年マガジン』	藤子不二雄 [Ⓐ]	昭和53年(1978)	当館
書籍	講談社コミックス『少年時代』	藤子不二雄 [Ⓐ]	昭和54年(1979)	当館
3 映画『少年時代』 - 憎しみ、そして愛				
パネル	肖像写真(篠田正浩、藤子不二雄 [Ⓐ] 、 山田太一)	篠山紀信撮影		写真提供：藤子スタジオ
書籍	映画『少年時代』台本	山田太一脚本、 篠田正浩監督 ©1990「少年時代」製作委員会		早稲田大学演劇博物館/ 東京国立近代美術館フィルムセンター
印刷物	映画パンフレット			入善町
パネル	写真 映画製作の風景(写真23点入)	©1990「少年時代」製作委員会		写真提供：表現社、藤子スタジオ
小道具	映画小道具(戦艦陸奥のバックル)			個人
記念品	映画製作記念の盾		平成3年(1991)	個人
印刷物	映画ポスター(海外版)		平成2年(1990)	当館
エピローグ				
映像	藤子不二雄 [Ⓐ] ビデオレター 「『長い道』から『少年時代』へ」	制作：乃村工藝社	平成24年(2012)	

(3)特別展「おおかみこどもの雨と雪 —大自然に生きる母と子の物語—」

会 期／平成25年 3月20日(金)～ 6月 3日(日)
 主 催／高志の国文学館
 共 催／富山県文化振興財団
 協 力／「おおかみこどもの雨と雪」製作委員会・スタジオ地図

担当学芸員／大川原竜一

観 覧 者 数／2,062人 (平成24年度中)
 (全会期中は、14,910人)

出 品 点 数／293点
 (本編カット、レイアウト図等含む)

印 刷 物／ポスター A1判 チラシ A4判



チラシ 表



チラシ 裏

趣旨・総括

第3回目の企画展示として、富山県上市町出身の細田守監督が手掛けたアニメーション映画の全国初の企画展を開催した。

細田守原作・監督による映画『おおかみこどもの雨と雪』は、「おおかみおとこ」と恋に落ちたヒロイン「花」が、彼を亡くした後、厳しくも豊かな大自然の中で「おおかみこども」の「雪」と「雨」を育てていく13年間を描いた物語。「子育て」、「親と子」という普遍的なテーマと向き合った作品は幅広い世代から共感を集め、平成24年夏の公開以来、観客動員数344万人を超える大ヒットを記録した。また、第36回日本アカデミー賞最優秀アニメーション作品賞をはじめ各賞を受賞するなど、国内外で高い評価を得た。

親子が都会の雑踏を逃れて移り住む田舎は、細田監督のふるさと富山県上市町の里山がモデルで、作中には劔岳やみくりが池、称名滝などを連想させる美しい風景が随所に登場する。主人公の親子が住んだ田舎の家は、実際に上市町の山奥にひっそりと佇む築130年の古民家がモデルとなっている。

自分が何ものでどう生きるべきか、人生の選択に悩みながらも精一杯生きる「おおかみこども」の「雪」と「雨」。そして二人をいつも優しく見守る母親「花」。

本展では、キャラクターごとのセリフ（言葉）に焦点をあて、映画の制作過程で描かれた絵コンテや原画、小説を手掛かりに、それぞれの人生の軌跡を追った。主人公の親子3人の各コーナーには、絵コンテ（映画の設計図）や本編シーンのカット、レイアウト図などを並べ、それぞれの人柄や心情の変化などを紹介した。

また、展示室内には原寸大で再現した古民家のジオラマや、雪と雨の身長を刻んだ柱を設け、映画の世界を体感できるようにした。

このほか、本邦初公開となる貴重な背景画として、花が最初に見た古民家の姿や、老アカギツネと雨が駆け抜ける高原の花畑など、富山の自然をモデルに写真と見間違えるほど緻密に描かれた18枚を展示した。



展示風景（花のコーナー）



展示風景（ジオラマ）



展示風景（背景画）

□関連行事

①映画上映会

開催日	作品名	会場	観覧者数
3月20日(水・祝)	おおかみこどもの雨と雪	富山県教育文化会館	550
※4月20日(土)	サマーウォーズ	富山県教育文化会館	210
※5月3日(金)	時をかける少女	富山県教育文化会館	240
※5月12日(日)	おおかみこどもの雨と雪(午前・午後2回)	富山県教育文化会館	440 540

②関連講座

開催日	講師	演題	受講者数
3月30日(土)	津堅信之氏 (京都精華大准教授)	アニメ映画の継承と発展 -アニメ監督・細田守の仕事-	34
※4月13日(土)	山崎正美氏 (花の家オーナー)	おおかみこどもの花の家	40
※4月21日(日)	神川康子氏 (富山大学教授)	みんなで子育て、一緒に成長!	30
※5月6日(月・祝)	近藤周吾氏 (富山高等専門学校准教授)	アニメのふるさと/ふるさとのアニメ	42
※5月18日(土)	山本茂行氏 (富山市ファミリーパーク園長)	オオカミと人	32

③ワークショップ「描いてみよう!ワンカット漫画」

開催日	内容	参加者数
※5月5日(日)	ワンカット漫画の作成 協力:高岡工芸高等学校デザイン研究部	20

④バスツアー

開催日	内容	参加者数
※5月25日(土)	花の家のモデルとなった古民家の見学ツアー 協力:上市町商工会青年部	25

□主な展示物

資料(作品)名	所蔵
「おおかみこどもの雨と雪」背景画	スタジオ地図
動画原画	スタジオ地図
アフレコ台本(A・Bパート、C・Dパート)	スタジオ地図
花・雪・雨の特別住民票	上市町役場
富山地方鉄道「おおかみこどもの雨と雪」記念乗車券	上市町役場
雪のワンピース	上市町観光協会

※は平成25年度に実施

□ミニパネル展

導入展示部である「ふるさと文学の回廊①」の壁面を利用して、4回のミニパネル展を実施した。

①「辺見じゅんメモリアル展」

会期／平成24年9月23日(日)～10月14日(日)

初代館長に就任予定であった辺見じゅん氏の一周忌にあわせて、メモリアル展を開催。写真パネル、アンティーク風デスク、特注の原稿用紙、「収容所から来た遺書」校正原稿（複製）、辺見氏旧蔵書、愛用の作務衣等を展示。平成14年度県民カレッジテレビ放送講座「作家が語る富山の文学」の辺見じゅん氏のインタビュー映像を導入展示部で上映した。



②「鏡花わーど in 富山」パネル展

会期／平成24年10月24日(日)～11月19日(日)

泉鏡花記念館（石川県）からの提供を受け、パネル展「鏡花わーど in 富山」展を開催。泉鏡花が富山を舞台に描いた作品について、作品のイメージに合わせて製作された解説パネル等を展示。



③『黒部の太陽』パネル展

会期／平成24年12月10日(日)～12月27日(日)

当館の開館記念展Ⅱ関連事業として、石原プロモーションの協力のもと、映画『黒部の太陽』のチャリティ上映会が開催された。これにあわせて、映画スチールパネル、映画小道具（法被・ヘルメットの複製モデル）を展示したパネル展を開催。

④『劔岳 点の記』パネル展

会期／平成25年1月5日(日)～1月12日(日)

当館の開館記念展Ⅱ関連事業として、映画『劔岳 点の記』上映会に合わせて、パネル展を開催。映画スチールパネル、映画台本、原作となった新田次郎『劔岳 点の記』の初版本、富山県〔立山博物館〕所蔵の錫杖頭（レプリカ）等を展示。

2. 資料概況

□資料数

		印刷物 (書籍・雑誌・冊子等)	自筆資料				美術品	写真	映像・音響資料	調度品・愛用品	その他	計
			原稿	原画	書簡	色紙・短冊・軸・一枚もの、その他						
～H23年度	購入	6,526	27	4	31	17		5	178		105	6,893
	寄贈	14,994	76	59	711	1,029	72	77	48	15	104	17,185
	製作	11	1			1					1	14
	小計 (A)	21,531	104	63	742	1,047	72	82	226	15	210	24,092
～H24年度	購入	3,458					2		9		1	3,470
	寄贈	3,050	9		16	15	24	24	4	2	12	3,156
	製作	1	7	9	3	8	1	1			2	32
	小計 (B)	6,509	16	9	19	23	27	25	13	2	15	6,658
H23 + H24合計(A) + (B)		28,040	120	72	761	1,070	99	107	239	17	225	30,750

□おもな新収蔵資料

寄 贈

作者等	資料名
郷倉 和子	日本画「春陽」(紙本彩色、平成24年)
良 寛	扇面五言詩軸「四大属不安」(紙本墨書、江戸時代後期)
松尾 芭蕉	直筆句軸「二見自画賛」(紙本彩色、江戸時代前期)
岸田 劉生	絵画「武者小路実篤氏肖像」(紙、鉛筆、水彩、大正8年)
源氏 鶏太	写真アルバム
堀田 善衛	原稿「セットにて」(原稿用紙10枚、昭和41年頃)
角川 源義	原稿「落日の幻想」(原稿用紙92枚、昭和42年頃)
正岡 子規	俳句分類原稿軸「水鶏」(明治時代)
須山ユキエ	原稿「法悦」(原稿用紙105枚、昭和22年以前)
後陽成天皇	宸翰和歌三首「花間鶯・花透霞・花漸散」(紙本墨書、安土桃山～江戸時代初期)
堀田 善衛	愛用の机
岩倉 政治	原稿「無告の記録」(『無告の記』第1章)
大島 秀信	越中万葉絵画「早月川より劔立山を望む」(紙本彩色、平成23年)

購 入

作者等	資料名
郷倉 和子	越中万葉絵画「ふるさとの万葉」(紙本彩色、平成24年)
藤森 兼明	越中万葉絵画「紅にほふ少女らし」(キャンバス、油彩、平成24年)
源氏 鶏太	原稿「永遠の眠りに眠らしめよ」(自家用箋548枚、昭和50～52年頃)
小寺 菊子	『父の罪』(初版、辰文館、明治45年)

3. 教育・普及事業

開館初年度は、企画展と連動した講演会、文学講座、映画上映会、さらには、ライブラリーコーナーなどを活用した音楽イベントや導入展示の壁面を利用したパネル展など、多彩なイベントを実施した。また、県内大学と連携した文学講座を開催した。

□開館記念展講演会

開催日／平成24年7月28日(土)

会場／富山国際会議場

講師／里中満智子氏(漫画家)

演題／万葉集に思いを馳せて

参加者／600名

高志の国文学館開館記念展「大伴家持と越中万葉－風土とこだまする家持の心」の関連事業として、漫画家の里中満智子氏による講演会を開催した。

里中氏は、登場人物一人ひとりの心の葛藤を丁寧に描くことに定評があり、これまで多くの作品が舞台化・ドラマ化されている。また、歴史を扱った作品も多く、十代の頃より憧れていたという『万葉集』の世界をもとに、持統天皇を主人公とした『天上の虹』を20年以上にわたり執筆されている。

「万葉集に思いを馳せて」と題した講演の中で、里

中氏は、万葉集には庶民から皇族まで身分や性別に関係なく歌を集められていることを紹介され、「万葉集は民主主義の証し」とであると語られた。



□第36回全国高等学校総合文化祭

～秋篠宮同妃両殿下並びに佳子内親王殿下ご来館～

8月8日(木)から12日(月)までの5日間、高志の国文学館などを会場に第36回全国高等学校総合文化祭「文芸部門」が開催された。大会初日は、高岡万葉、富山、立山の3コースに分かれての文学散歩が行われ、いずれのコースも当館を訪れ、県外から184校188名が見学した。

また、秋篠宮同妃両殿下並びに佳子内親王殿下のご臨席を賜り、各道県の参加代表校によるふるさと文学紹介パネルの展示、各ブロック代表による地元のパネルを紹介する発表も行われた。

秋篠宮同妃両殿下並びに佳子内親王殿下には、中西進館長の御説明により、開館記念展「大伴家持と越中万葉－風土とこだまする家持の心」をご覧いただいた。



□越中万葉朗唱の夕べ

開催日／平成24年 9月15日 14:00～20:00

会場／当館庭園特設ステージ

参加者／約250名

開館記念展「大伴家持と越中万葉」に合わせ、越中万葉の魅力を広く県民に伝えるとともに、毎年10月に高岡市で開催されている「万葉集全20巻朗唱の会」へと機運を高めていくため、「越中万葉朗唱の夕べ」を開催した。

第一部は、高岡市のかたかご幼稚園の園児による合唱とダンスの後、小学生から年配の方まで、公募に



より選ばれた約100名が約200首の越中万葉を高らかに朗唱した。

第二部は、ランタンが焚かれた幻想的な雰囲気の中、箏曲家の黒川真理氏が自ら作曲した「万葉絵巻」を演奏し、あわせて劇団文芸座の小泉邦子氏による語りで万葉の世界を豊かに表現した。特別招待者である歌人の馬場あき子氏の朗唱（写真）では、自らの戦争体験と重ねて歌の背景を解説していただいた。県オペラ協会会長の安念千重子氏による長歌を題材にした歌の独唱も行われた。



□平成24年度 高志の国文学館文学講座

10月から11月にかけて、県内大学の協力のもと、富山県ゆかりの「ふるさと文学」はもとより、広く我が国の歴史や文化を探访することを目的とした文学講座を実施した。古代の王朝と越中のつながりや近代における越中の俳壇の様子、また、小泉八雲・森鷗外・川端康成といった明治・昭和期の文豪にいたるまで、それぞれのご専門の分野について詳しく解説していただいた。受講者からは、「ふるさとの再発見につながった」「50年前の学生の頃に帰って聴くことができた」などの感想が寄せられた。



開催日	講師	演題	受講者数
10月21日(日)	鈴木 景二 (富山大学)	越と王朝文化	66
10月28日(日)	吉田 泉 (高岡法科大学)	川端康成 -『掌の小説』の美と怪奇	78
11月4日(日)	村井 文夫 (富山大学)	「ヘルン文庫」と『夏の日の夢』 -八雲とチェンバレン-	64
11月18日(日)	金子 幸代 (富山大学)	森鷗外『舞姫』と現代日本	65
11月25日(日)	大西 紀夫 (富山短期大学)	越中の近代の俳句 -蕉風の流れ-	57

□映画上映会

企画展と連動した映画のほか、富山県ゆかりの映画の上映会を開催した。あわせて、監督等によるトークイベントや講演会も開催した。

開催日	作品名	会場	観覧者数
12月7日(金)	<p>「少年時代」</p> <p>・公開座談会（篠田正浩（映画監督）×山田太一（脚本家）×中西進（高志の国文学館長））</p> <p>※藤子不二雄[Ⓐ]ビデオレター出演</p> 	富山県教育文化会館	400
12月16日(日)	<p>「黒部の太陽」</p> <p>・講演会「『黒部の太陽』3つのエピソード」</p> <p>講師：大田 弘（熊谷組社長）</p>	富山県民会館	800
12月26日(水)		高岡文化ホール	420
1月12日(土)	<p>「劔岳 点の記」</p> <p>・講演会「誰かが行かなければ道はできない -春を背負って-」</p> <p>講師：木村 大作（映画監督）</p> 	富山県教育文化会館	500
2月11日(月・祝)	<p>「少年時代」</p> <p>・特別企画「篠田監督と主役少年たちとの再会」</p>	富山県教育文化会館	519
3月20日(水・祝)	「おおかみこどもの雨と雪」	富山県教育文化会館	550

□朗読と弦楽の夕べ

9月から10月にかけて、金曜日の夜に、県内アナウンサーによる朗読と県内演奏者による弦楽演奏を組み合わせた「朗読と弦楽の夕べ」を開催した。富山県ゆかりの作品から人気作家の作品まで、幅広いジャンルにわたり、その内容も小説、怪談、児童文学と多彩なものとなった。県内の一流演奏家による美しい弦楽の音色が、それぞれの作品にさらなる彩りを添え、読書の秋にふさわしいイベントとなった。



開催日	朗 読 者 (所属) 演 奏 者 (楽器)	作 品	観覧者数
9月7日(金)	矢野 美沙 (富山テレビ放送) 小澤 真琴 (ヴァイオリン)	新田次郎『劔岳 点の記』	103
9月14日(金)	田中 千佳 (FMとやま) 新井沙央理 (ヴァイオリン)	伊坂幸太郎『終末のフール』	63
9月21日(金)	田中 泉 (NHK 富山放送局) 川村 文乃 (ハーブ)	小泉八雲『怪談』から	127
10月5日(金)	福田佳緒理 (チューリップテレビ) パク・ヒヨナ (チェロ)	大井冷光『越中お伽噺』 ～佐伯有頼～ほか	106
10月12日(金)	平島亜由美 (北日本放送) 四十谷 隆司 (ギター)	『路上の人』 ～堀田善衛とスタジオジブリが描く乱世	182

□その他

利用促進の一環として、指定管理者である(公財)富山県文化振興財団の主催によるミュージアムコンサート等が開催された。

○平成24年7月22日回

N響メンバーによるミュージアムコンサート
参加者300名

○平成25年3月10日回

にんぎょうげき「三枚のお札」
(午前・午後2回講演)
参加者207名



4. 高志の国文学館友の会

高志の国文学館友の会は、文学館の開館に先立つ平成24年6月18日(月)、「文学館の事業に基盤をおいて、ふるさと文学を中心とする幅広い芸術文化に関する活動を通して、多くの人々が生涯学習の機会を持ち、会員相互に親睦を深めるとともに、文学館と連携し、文学館の活動を広く支援していくことを目的」として設立された。

設立初年度となる平成24年度は、開館記念展「大伴家持と越中万葉」の関連イベントとして開催された里中満智子氏の講演会や「越中万葉朗唱の夕べ」をはじめ、文学館が主催する各種行事への優先参加などを行った。自主事業としては、研修旅行「秋の奈良を訪ねて～奈良県立万葉文化館と正倉院展」、ラ・ベットラ・ダ・オチアイの落合務シェフの料理&トークショー、篠田正浩監督を囲んでの交流会などを開催した。

また、会員特典として、ラ・ベットラ・ダ・オチアイ・トヤマのランチ予約優待権を追加した。

初年度の入会者数は、目標としていた1,200名を上回り、1,273名となった。

会員数

一般会員	1,161	学生会員	4
法人会員	23		
5年会員(個人)	49	5年会員(法人)	2
賛助会員(個人)	33	賛助会員(法人)	1

会費

一般会員	2,000円
学生会員	1,000円
法人会員	20,000円
5年会員(個)	10,000円
5年会員(法)	100,000円
賛助会員	一口10,000円

特典

- ・文学館ニュースや各種行事案内の配布
- ・文学館及び友の会主催行事への優先参加
- ・文学館が発行する図録等の割引購入
- ・文学館内レストランの飲み物代優待
- ・文学館内レストランのランチ予約優待

平成24年度事業

- ・各種行事への優先参加
 - 7月28日(土) 里中満智子氏講演会
 - 9月15日(土) 越中万葉朗唱の夕べ
 - 12月7日(金) 映画『少年時代』上映会
 - 3月20日(水・祝) 映画「おおかみこどもの雨と雪」上映会
- ほか各種文学講座等に優先参加

- ・落合シェフ料理&トークショーの開催
 - 10月13日(日) 高志の国文学館 研修室101にて
 - 参加者65名



- ・研修旅行「秋の奈良を訪ねて～奈良県立万葉文化館と正倉院展」
 - 11月2日(金)～3日(土) 参加者24名
 - 興福寺、奈良国立博物館「正倉院展」、石舞台古墳、飛鳥寺、奈良県立万葉文化館を訪問



- ・会員のつどい「篠田正浩監督を囲む交流会」
 - 2月10日(日) ラ・ベットラ・ダ・オチアイ・トヤマにて
 - 参加者21名

理事会

- 6月18日(月) 設立発起人会、第1回理事会
- 7月18日(水) 第2回理事会

Ⅲ 管理・運営

1. 利用状況

(1)入館者数・観覧者数

	会 期	日 数	入館者	企画展 観覧者	常設展 観覧者	観覧者計	1日 あたり
大伴家持と 越中万葉	H24.7.6 ~ H24.10.14	87	63,130	15,527	18,269	33,796	388
富山が育んだ 少年時代	H24.12.8 ~ H25.2.25	62	23,043	4,064	4,483	8,547	138
おおかみこどもの 雨と雪	H25.3.20 ~ H25.6.3	11 (67)	5,613 (38,176)	2,062 (14,910)	1,926 (15,297)	3,988 (30,207)	363 (451)
常設展のみ		62	29,425		5,990	5,990	97
合 計		222	121,211	21,653	30,668	52,321	236
休館日		47					

※

開館日数／222日 うち 臨時開館1日

休館日数／47日

開館延長／87日（7月6日～10月14日）

金・土曜日 20時まで その他の開館日18時30分まで

1日（2月11日）

金・土曜日 20時まで その他の開館日18時30分まで

開館時間／9時30分から17時まで（展示室への入館は16時30分まで）

※研修室の利用は21時まで

休 館 日／火曜日（祝日を除く）、祝日の翌日、年末年始（12月28日から1月4日）

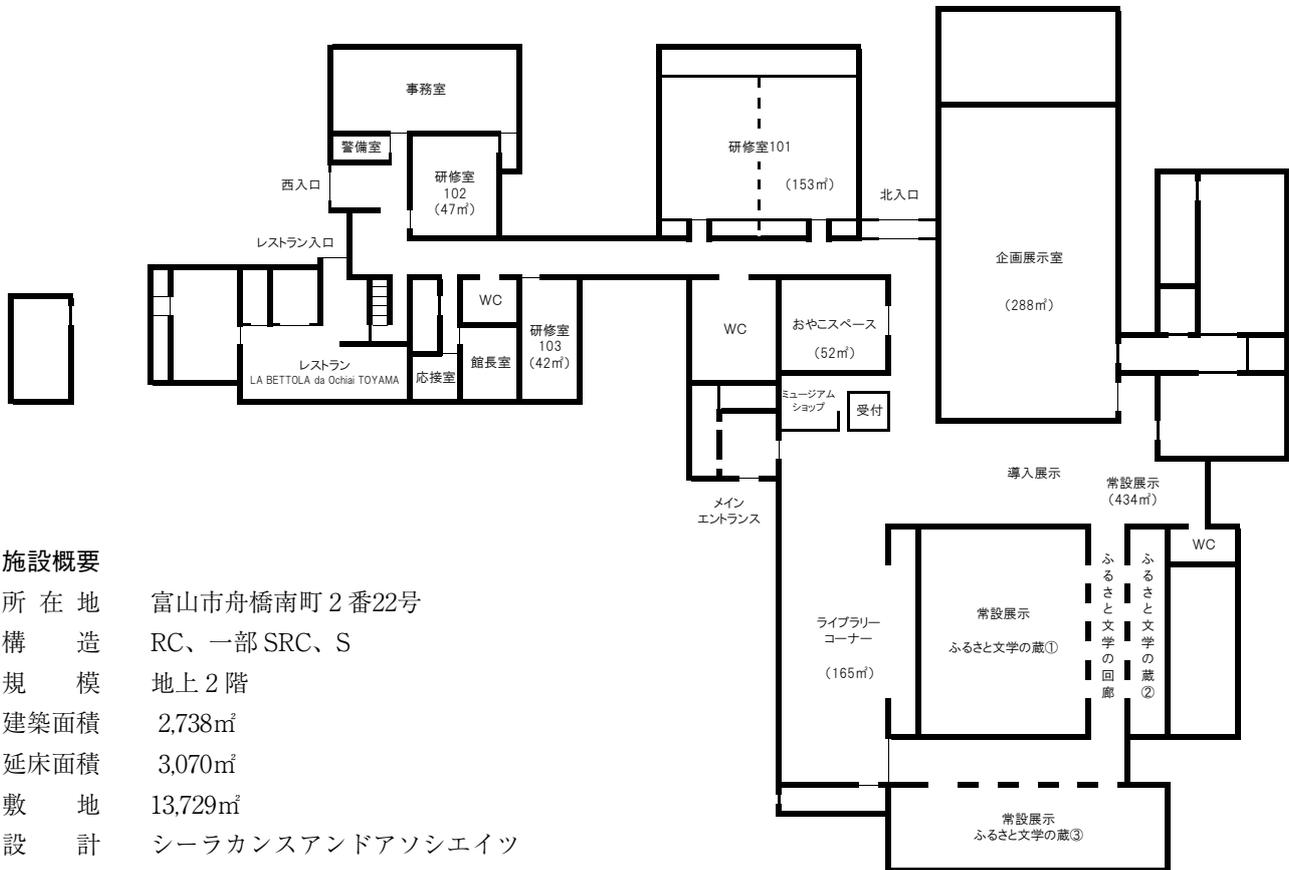
※「おおかみこどもの雨と雪」の数値は、平成24年度中のもの。（ ）は全会期中の数値。

(2)研修室の利用状況

年	月	開館 日数	休館 日数	研修室101		研修室102		研修室103	
				件数	人数	件数	人数	件数	人数
24	4月	-	-	-	-	-	-	-	-
	5月	-	-	-	-	-	-	-	-
	6月	-	-	-	-	-	-	-	-
	7月	22	4	34	735	17	36	22	107
	8月	28	3	66	636	13	49	21	289
	9月	25	5	42	1,268	13	58	27	385
	10月	26	5	37	1,157	19	84	29	388
	11月	24	6	32	1,000	20	231	28	324
	12月	23	8	22	231	10	73	17	148
25	1月	23	8	17	250	10	42	24	222
	2月	24	4	19	549	20	103	27	265
	3月	27	4	25	379	12	46	27	262
計		222	47	294件	6,205人	134件	722人	222件	2,390人

研修室201		研修室202		和 室		合 計	
件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
14	19	66	281	29	38	182	1,216
17	19	84	301	13	32	214	1,326
13	39	75	265	12	51	182	2,066
14	62	77	224	16	71	192	1,986
21	97	72	191	7	36	180	1,879
21	111	69	218	18	86	157	867
20	80	2	13	6	31	79	638
12	55	7	25	6	34	91	1,031
15	70	4	19	4	22	87	798
147件	552人	456件	1,537人	111件	401人	1,364件	11,807人

2. 施設の概要



施設概要

所在地	富山市舟橋南町2番22号
構造	RC、一部SRC、S
規模	地上2階
建築面積	2,738㎡
延床面積	3,070㎡
敷地	13,729㎡
設計	シーラカンスアンドアソシエイツ
工事施工	日本海建興、酒井建設、辻建設、乃村工藝社 ほか
総工費	1,947,135,080円
工期	起工 平成23年7月4日 竣工 平成24年7月3日

3. 機構

平成25年3月31日現在



□指定管理者の指定状況

平成24年7月～平成26年度

(公財)富山県文化振興財団

□職員名簿

職	氏名	備考
館長	中西 進	
副館長	村椿 晃	
主幹	橋本 隆	本務 文化振興課
事業課長	山形 隆	
副主幹	中川美彩緒	学芸員、本務 水墨美術館学芸課長
主任	川渕 貴	本務 文化振興課
主任	綿引 香織	学芸員
学芸員	大川原竜一	
主事	大蔵 良輔	
施設管理課長	亀谷 哲史	
マネージャー	富岡 准二	
嘱託	魚屋美智乃	

4. 組織

平成25年3月31日現在

高志の国文学館運営委員会委員

氏名	役職等
生田 美秋	世田谷文学館学芸部長
高木 繁雄	(株)北陸銀行取締役頭取
多田 慎一	第一物産(株)会長
飛田 久子	富山県婦人会理事
中井 敏郎	東亜薬品(株)代表取締役社長
平田 純	(社)富山県芸術文化協会名誉会長、英文学者
マリ・クリスティーン	富山大学特別研究員
八木 光昭	聖徳大学教授、元洗足学園魚津短期大学教授
藪 道子	公募委員、富山県 PTA 連合会副会長
米田 憲三	富山県歌人連盟会長

ふるさと文学資料選定・評価委員会委員

①書籍等

氏名	役職等
八木 光昭	聖徳大学教授、元洗足学園魚津短期大学教授
晒谷 和子	高岡市立博物館長
赤川 雅和	富山県立図書館長
久泉 迪雄	日本短歌協会副理事長、富山県歌人連盟名誉会長
河原 桂介	とやま同人誌会会長

②絵画

氏名	役職等
大熊 敏之	富山大学芸術文化学部准教授
島 敦彦	国立国際美術館学芸課長
福永 治	国立新美術館副館長

高志の国文学館アドバイザー

氏名	役職等
篠田 正浩	映画監督
滝田洋二郎	映画監督
藤子不二雄 [Ⓐ]	漫画家

IV 資 料

沿革

年 月 日	事 項
平成20年 6月 2日	ふるさと文学魅力推進検討委員会を設置
10月	ふるさと文学の振興に関する県民アンケート調査を実施
平成21年 2月 3日	ふるさと文学魅力推進検討委員会報告「ふるさと文学の振興に関する報告書」
6月12日	ふるさと文学資料評価・活用委員会を設置
11月10日	知事公館を廃止し、文学館の建設候補地とすることを発表
平成22年 2月 4日	ふるさと文学資料評価・活用委員会報告 「ふるさと文学の拠点施設の整備・運営にかかる基本的な考え方」
3月31日	「富山県ふるさと文学館（仮称）整備基本方針」を策定
3月31日	富山県知事公館廃止
5月17日	富山県ふるさと文学館（仮称）開設準備委員会を設置
11月19日	館長予定者として辺見じゅん氏が顧問に就任 アドバイザーとして中西進氏、篠田正浩氏、藤子不二雄 [Ⓐ] 氏、滝田洋二郎氏が就任
平成23年 4月 5日	公募したレストラン部門に「ラ・ベットラ・ダ・オチアイ」の出店が決定
7月 4日	建築工事に着手
9月 5日	名称を「高志の国文学館」に決定
9月21日	辺見じゅん顧問急逝
9月28日	高志の国文学館条例を一部施行
11月30日	高志の国文学館指定管理者の募集開始
12月 1日	中西進館長が就任
平成24年 1月 4日	高志の国文学館開館日を7月6日に決定
1月21日	高志の国文学館ミーティングを開催
3月23日	高志の国文学館の指定管理者に（公財）富山県文化振興財団を指定
7月 3日	高志の国文学館建築工事竣工
7月 6日	高志の国文学館条例一部改正
7月 6日	開館
7月 6日	開館記念展「大伴家持と越中万葉一風土とこだまする家持の心」開催
7月 8日	開館記念講演会「日本文化の底流」五木寛之氏
7月15日	入館者1万人突破
8月 8日	秋篠宮同妃両殿下並びに佳子内親王殿下ご来館
9月23日	辺見じゅん先生の思い出を語る会 開催
12月 8日	開館記念展Ⅱ「富山が育んだ少年時代－小説・漫画・映画が描く疎開少年の長い道－」開催
平成25年 2月 3日	入館者10万人突破
3月20日	特別展「おおかみこどもの雨と雪－大自然に生きる母と子の物語－」開催

V 法 令

高志の国文学館条例

平成23年9月28日

富山県条例第41号

改正 平成24年6月29日条例第38号

高志の国文学館条例を公布する。

高志の国文学館条例

(趣旨)

第1条 この条例は、高志の国文学館の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 富山県の自然及び風土の中ではぐくまれた文学作品その他の文学関係資料を紹介し、文学に関する県民の知識を深め、教養の向上を図るとともに、県民自らが親しみ、学び、創造し、交流することができるよう、県民に文学を中心とする文化活動の場を提供し、もって教育、学術及び文化の振興並びに心豊かな地域社会の形成に寄与するため、高志の国文学館（以下「文学館」という。）を設置する。

(位置)

第3条 文学館は、富山市に置く。

(事業)

第4条 文学館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 文学に関する書籍、原稿、文献、写真、フィルムその他の資料及び文学者に関する資料（以下「文学資料」という。）を収集し、保管し、及び展示し、並びに閲覧に供すること。
- (2) 文学資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、及び研修室等を設置してこれを利用させること。
- (3) 文学に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を開催すること。
- (4) 文学資料に関する専門的な調査研究を行うこと。
- (5) 文学資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、文学館の設置の目的を達成するために必要な事業

(指定管理者による管理)

第5条 知事は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であつて知事が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に文学館の管理を行わせるものとする。

(指定管理者が行う業務)

第6条 前条の規定により指定管理者に行わせる管理の業務は、次に掲げる業務とする。

- (1) 文学館の施設及び設備の維持管理に関する業務
- (2) 第13条第1項の規定による専用使用の承認に関する

業務

(3) 第15条第1項に規定する使用料の徴収に関する業務

(4) その他文学館の管理に関して知事が必要と認める業務（休館日）

第7条 文学館の休館日は、次に掲げる日とする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、休館日以外の日に休館し、又は休館日に開館することができる。

- (1) 火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たる場合を除く。）
- (2) 休日の翌日（その日が日曜日、土曜日又は休日に当たる場合は、その日後においてその日に最も近いこれらの日以外の日）
- (3) 12月28日から翌年の1月4日までの日

(開館時間)

第8条 文学館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、研修室及び和室の開館時間については午前9時30分から午後9時まで、駐車場の開館時間については午前9時から午後9時30分までとする。

2 前項の規定にかかわらず、知事は、特に必要があると認めるときは、開館時間を臨時に変更することができる。

(平24条例38・一部改正)

(入館の拒否及び制限)

第9条 指定管理者は、文学館に入館しようとする者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、入館を拒否することができる。

- (1) 他の入館者に迷惑となる行為をするおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備又は文学資料（次条第1項第2号において「施設等」という。）を汚損し、又は損傷するおそれがあるとき。

2 指定管理者は、文学館の管理上必要があると認めるときは、入館を制限することができる。

(遵守事項等)

第10条 文学館に入館した者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 他の入館者に迷惑となる行為をしないこと。
- (2) 施設等を汚損し、又は損傷しないこと。
- (3) 指定された場所以外の場所で喫煙又は飲食をしないこと。
- (4) その他知事が特に指示した事項

2 知事は、文学館に入館した者が前項の規定に違反したときは、その者に退館を命ずることができる。

(常設展示観覧料及び企画展示観覧料)

第11条 常設展示室において展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第1に定める金額の常設展示

観覧料を納めなければならない。ただし、企画展示観覧料を納める者は、この限りでない。

- 2 企画展示室において特別に展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第1に定める金額の企画展示観覧料を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(特別観覧)

第12条 文学館に展示し、又は保管している文学資料について学術研究等のために模写、模造、撮影等をしようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

- 2 前項の承認には、文学資料の管理上必要な条件を付することができる。

- 3 第1項の承認を受けた者は、別表第1に定める金額の特別観覧料を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(専用使用の承認等)

第13条 文学館の施設のうち別表第1に掲げるものを専用して使用しようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。承認を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

- 2 指定管理者は、前項の承認を受けようとする者が第9条第1項各号のいずれかに該当すると認めるとき、その他文学館の設置の目的を達成するについて不適当と認めるときは、前項の承認をしないものとする。

- 3 第1項の承認には、文学館の管理上必要な条件を付することができる。

(平24条例38・一部改正)

(施設使用料及び駐車料金)

第14条 前条第1項の承認を受けた者(以下「専用使用者」という。)は別表第1に定める金額の施設使用料を、駐車場を使用する者は別表第2に定める金額の駐車料金を納めなければならない。

(平24条例38・一部改正)

(使用料の徴収方法)

第15条 常設展示観覧料、企画展示観覧料及び特別観覧料並びに施設使用料及び駐車料金(以下「使用料」という。)は、知事の発行する納入通知書により徴収する。ただし、これにより難い場合においては、口頭又は掲示の方法により現金で徴収する。

- 2 使用料は、前納とする。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(平24条例38・一部改正)

(使用料の減免)

第16条 知事は、特別の理由があると認めるときは、使用料を減免することができる。

(使用料の還付)

第17条 既に徴収した使用料は、還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(専用使用の承認の取消し等)

第18条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第13条第1項の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

- (1) 専用使用者がこの条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。

- (2) 専用使用者が偽りその他不正の手段により第13条第1項の承認を受けた事実が明らかとなったとき。

- (3) 専用使用者が第13条第3項の規定による承認の条件に違反したとき。

- (4) その他文学館の管理上特に支障があると認められるとき。

(高志の国文学館運営委員会)

第19条 文学館に高志の国文学館運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

- 2 委員会は、文学館の運営に関し知事の諮問に応ずるとともに、知事に対し意見を述べるものとする。

第20条 委員会は、委員10人以内で組織する。

- 2 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 3 委員は、再任されることができる。

第21条 委員会に、委員長及び副委員長1人を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、それぞれ委員が互選する。

- 3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(規則への委任)

第22条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成23年10月1日から施行する。ただし、第5条から第21条まで、附則第2項及び別表第1の規定は、規則で定める日から施行する。

(平成24年規則第40号で附則第1項ただし書に規定する規定は、平成24年7月6日から施行)

(平24条例38・一部改正)

(施設使用料の特例)

- 2 前項の規則で定める日から起算して2年を経過する日までの間における別表第1の4の規定の適用については、同表中「4,230円」とあるのは「2,820円」と、「840円」とあるのは「560円」と、「3,780円」とあるのは「2,520円」とする。

円」と、「750円」とあるのは「500円」と、「1,350円」とあるのは「900円」と、「270円」とあるのは「180円」とする。

(平24条例38・一部改正)

附 則 (平成24年条例第38号)

(施行期日)

1 この条例は、平成24年7月6日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の日から平成25年3月31日までの間における第6条の規定の適用については、同条第1号中「施設」とあるのは「施設(駐車場を除く。）」と、同条第3号中「使用料」とあるのは「使用料(駐車料金を除く。）」とする。

別表第1 (第11条、第12条、第13条、第14条関係)

(平24条例38・旧別表・一部改正)

1 常設展示観覧料

区 分	金額 (1人1回につき)	
	個人	20人以上の団体
大学の学生及びこれに準ずる者	160円	100円
一般	200円	160円

備考 小学校の児童、中学校の生徒、高等学校の生徒及びこれらに準ずる者に係る常設展示観覧料は、無料とする。

2 企画展示観覧料

1人1回につき1,500円の範囲内で知事が定める金額

3 特別観覧料

1回1点につき4,000円の範囲内で知事が定める金額

4 施設使用料

区 分		使用時間3時間までの金額	超過時間1時間の金額
研修室1	全部使用	13,770円	3,440円
	2分の1使用	6,840円	1,710円
研修室2		4,230円	840円
研修室3		3,780円	750円
研修室4		1,350円	270円
研修室5		1,350円	270円
和室		1,620円	320円
附属設備		実費を勘案して知事が定める額	

備考

1 使用時間1時間未満の端数は、1時間として計算する。

2 使用時間を短縮した場合においても、施設使用料は、減額しない。

別表第2 (第14条関係)

(平24条例38・追加)

種 別	単 位	金 額
基本料金	入場した時から1時間までにつき1台	320円
加算料金	入場した時から1時間を超える時間30分までごとにつき1台	110円

高志の国文学館の職員の 勤務時間に関する規程

平成24年7月5日
富山県訓令第10号

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程を次のように定め、公表する。

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程
(趣旨)

第1条 この訓令は、県職員及び県費負担教職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例（昭和26年富山県条例第73号）第4条第1項及び富山県職員の勤務時間に関する規程（昭和27年富山県訓令第1号）第3条の規定に基づき、高志の国文学館の職員（知事の指定する者を除く。以下「職員」という。）の勤務時間に関し必要な事項を定めるものとする。

(勤務時間)

第2条 職員の勤務時間は、午前8時30分から午後5時15分までとする。

2 高志の国文学館長（以下「館長」という。）は、業務の状況により必要があると認めるときは、勤務時間を繰り上げ、又は繰り下げることができる。

(週休日及び勤務時間の割振り)

第3条 館長は、職員の週休日を日曜日及び土曜日以外の日とすることができる。

2 職員の勤務時間の割振りは、館長が定める。

(休憩時間)

第4条 職員の休憩時間は、1時間とし、館長が勤務時間の途中に置く。

附 則

この訓令は、平成24年7月6日から施行する。

高志の国文学館の 使用料の額について

平成24年7月5日
富山県告示第317号

高志の国文学館の使用料の額について

高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号）別表第1の4の表の知事が定める額は、次のとおりとし、平成24年7月6日から施行する。

品名	単位	金額
ビデオプロジェクター (スクリーン付)	1式	2,850円
拡声装置(マイク付)	1式	2,420円

備考 この表に掲げる金額は使用時間3時間についての額とし、使用時間3時間未満の端数は3時間として計算する。

平成24年度 高志の国文学館 年報

平成25年11月25日発行

編集 高志の国文学館
富山県富山市舟橋南町2-22

印刷 北日本印刷株式会社

発行 高志の国文学館
